
ダークメリーさん

夢幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダークメリーさん

【Nコード】

N0294V

【作者名】

夢幻

【あらすじ】

暇だったから、有名な、メリーさんを改造してみました！

(前書き)

まったく怖くないよ!!

「は、彼奴来ない……。電話でもうすぐ着くって言うてたのに。」
俺は、電話で来るって言うていた、友だち来るの待っていた。この後、何かあるか知らないままで……。

ピンポン

「おっ、来た来た。」

俺は、走ってドアまで行き、急いでドアを開けた。

「遅くなってごめん！飯食ってたら遅くなった！」

「まあ、来たからいいや。さあ、入って。」

俺は、友達を家に入れた。

「で、家に来たのはいいいけど何する？一応トランプ持ってきたけど。」

「じゃあばは抜きでも、やろうぜっ！！」

俺は、友だちと、ばは抜きを始めた。

5分後

「負けた。」

俺は、友だちに結構な大差で負けてしまった。

プルプルプルプルプルプル

「あっ、ちょっと電話きたから出てくるわ。」

「おうっ！」

俺は、駆け足で、電話があるところまで、走って行った。

「はい、もしもし。」

「……………、あたし、メリーさん。今、あなたの部屋にいるわ。」

俺は、大急ぎで、友達のいる自分の部屋に走って行った。

「おい、どうした？そんなに慌てて（笑）」

友達は、電話を持ってにやにやとしていた。

「畜生！今の電話お前かよ！」

「え？何のこと？俺、今、親に帰ってくるのが遅くなりそうってメール送っただけだけど。」

俺は、パニックになった。

（じゃあ、今の電話は誰なんだ？）

プルプルプルプルプルプルプル

「まただ、行ってくる。」

「おうっ！」

今度は、友達が携帯を持っていないことを確認して、走って、電話に出た。

「はい、もしもし。」

「……………、あたし、メリーさん。今、あなたの、友達の首を使って遊んでいるの。」

「え……………」

俺は、大急ぎで友達のいた自分の部屋に戻った。

「おい！だいじょうぶか、」

部屋に入るって見たものは、首から大量の血を吹き出してる友だちの姿だった。

「あ、ああ、うわあああああああ！！！！！！」

俺は、思いつきり部屋から逃げた。できるだけ、速く。

「はあ、はあ、はあ。」

なんとか、走って、玄関に着いた。しかし、そこには、友達の首を楽しそうに振り回す、鉈を持った少女の姿があった。

「あたし、メリーさん、今度は、あなたの首が欲しい。」

「あ、来るな、来るなああああ！！！！！！」

ザシュッ

「あたし、メリーさん。今日は、楽しかった。明日は、誰の首で遊ぼうかな。」

次の、相手は、あなたかもしれませんよ。

（後書き）

言った通り怖くなかったでしょ！！あと、何カ月後にこれを改良して出したいとおもいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0294v/>

ダークメリーさん

2011年10月9日00時26分発行